



イーシャ・ラーナーさん

フラワーエッセンス療法家、占星術師、タロット占師。1976～1980年、スコットランドのフィンドホーン共同体に在籍し、人類と自然と神秘主義の創造的な関係を研究。30年以上に及ぶ検証と実績があり、幅広く活動をしている。「パワーオブフラワーオラクルカード」「インナーチャイルドカード」の著者。オレゴン州在住。日本での次のインナーチャイルドワークショップは、9月25日、26日（ベシックコース）、10月2、3日（アドバンスコース）の予定。

おとぎ話が心の旅をナビゲート 「インナーチャイルドカード」

カラフルで素朴な絵柄の「インナーチャイルドカード」は、タロットカードに対応した78枚で構成されています。タロットカードを長年実践してきたイーシャさんが、「あらゆる人が抵抗なく心地よく使えるようなカードが作りたい」と思ったのがきっかけで生まれました。

大アルカナという22枚の絵札にはさまざまなおとぎ話のシーンが描かれています。順番に並べていくと、主人公が旅に出てさまざまな出来事や事件に出会いながらも成長して行く、というひとつのストーリーになっています。また、小アルカナという数字の札は、「ソード」「翼のあるハート」「クリスタル」「マジックワンド」という、トランプの組のような4つのグループから成り立っていて、それぞれに「思考」「感情」「感覚」「直感」を表しています。

インナーチャイルドとは、誰もがもっている心の中の原点のようなもの。そこに戻ることによって自分らしく生きていくことができます。このカードを使うことで、そうした心の原点に戻るお手伝いをしてくれます。



インでの6年半の経験は、その後の30年に渡るイーシャさんの活動の土台となりました。占星術、タロット、エッセンス、3つを組み合わせたセッション。イーシャさんは、占星術とタロットを18歳から学び始め、その後さまざまなヒーリング法を身につけました。そして、占星術、タロット、フラワーエッセンスを組み合わせた現在のセッションを体系化していきます。このいきさつは何だったのでしょうか。

「占星術のワークだけでも非常に満足できるプロセスです。チャートは、クライアレントも気づいていない課題や、現在のサイクルを指し示してくれていますから。この占星術チャートを使うプロセスを『ソウルマップ』と呼んでいます。チャートを見ることは、確たる問題に近道をして行き着くようなものです。『将来必ず』こうなります」とは言えませんが、どんなことが待っているのか地図を見ることはできます。地図がわかれば予測でき、準備もできます。そこへフラワーエッセンスを加えることも、もっと深く満足してもらえようと思ったのです。

チャートで自分の問題点やテーマに気づき、それをふまえて実際の日常を送っていくためには、フラワーエッセンスが助けになる、とイーシャさんは言います。今ではパワーオブフラワーエッセンスを自身で作る、世界中に供給しています。「エッセンス作りは、自然界の魂につながる機会、またお花の波動的な効果に触れる機会。エッセンスを日常に取り入れるのは、自然界の波動を通して人間の魂を癒していくことなんです」

聞き手の何かが変容するおとぎ話が持つ魔法の力。カードのプロデューサーでもあるイーシャさんが、30年間に出版したカードは4種類。なかでも「インナーチャイルドカード」は10カ国語に訳され普及。日本にも愛読家が多く、このたびの日本語版出版でさらに注目が集まりそうです。「多くの方と同じように、私自身もスピリチュアルな道でさまざまな波瀾万丈を体験してきました。その中で、こうやってカードを出版できたことは、とても光栄なことだと思っています」

インナーチャイルドカードが生まれた背景にはイーシャさんの3人の娘さんたちがいました。幼いときからタロットカードが大好きだったけれど、やはり従来の絵は怖かったのだそう。そこでイーシャさんは、カード本来の意味を失うことなく、怖くないイメージの

「フラワーエッセンス」「カード」「ソウルマップ」で 魂にアプローチ

ハートのヒーラー、イーシャ・ラーナーさん来日！



ハートの温かさや謙虚さがあふれる、ピュアな少女のようなイーシャ・ラーナーさん。今年3月に「インナーチャイルドカード」「パワーオブフラワーオラクルカード」が日本語訳が発売され、注目が集まっています。今回は、その素敵な人柄に触れながら、プロダクトが生まれた背景やセッション体験などもお伝えします。



セラピーが学べるWEB TV「TNCC」にて、イーシャ・ラーナーさんによるセッションの動画を配信予定！詳しくは52～53ページをご覧ください。
<http://www.therapynetcollege.com>

その後の活動につながった
ハワイとフィンドホーンの体験

イーシャさんのキャリアは、「自分のスピリチュアルな人生について探求したい」と、ハワイにやってきた16歳から始まります。「10代は神秘主義的な学びの時期でした。ときに痛みを伴うこともありましたが、スピリチュアルな人生観や不思議な体験にたくさん触れることができたんです。ハワイの神秘的な自然のなかで、自分の内側にいる輝く子供につながって生きていくことが人生の意味なんだ」という発見が、のちにインナーチャイルドカードにつながりました。

18歳のとき、偶然のはからいでスコットランドのフィンドホーンへ。フィンドホーンとは、人と自然界が共同創造することがテーマのスピリチュアルな共同体。「ここでは植物界とコミュニケーションをとることを学び、フラワーエッセンスについても深く知るように。オーストリアの神秘家シユタイナーの考えに触れ、自然界のスピリットが人間の形をとってあらわれる」という考え方が、のちに「パワーオブフラワーカード」へとつながりました。



3

インナーチャイルドカードを全部で3枚ひく。右から「過去」「現在」「未来」で、約1年間の流れを表す。「過去」のカードは「ソード(剣)の6」。お城で騎士たちがお祝いしている絵で、6か月ほど前にひらめきがあって人生の決断をし、それが間違っていないことをあらわしている。「現在」のカードは「翼のあるハートの6」で、水と空気中を行き来するマーメイドたちが描かれ、意識と無意識の両方を扱っていることや、一人孤獨ではないことを意味している。「未来」のカードは「クリスタルの8」で、土の妖精がスケートをしているところ。現在のワークにフォーカスしてやっつけば、将来、そのスキルを成長させて行くことができることを表している。



4

32本のパワーオブフラワーエッセンスの中から必要なエッセンスを特定する。ペンデュラムを使うことも。アップルプロッサム「浄化」、サンフラワー「第1チャクラのバランス」、アンジェリカ「微細なエネルギーをグラウンディング」に絞られた。



5

水とブランデーの入ったボトルに、先ほどのエッセンスを入れて、ドーズンボトルをつくる。最後に再びペンデュラムで自分に合うエッセンスになっているか確認する。

2

次にインナーチャイルドカードを使う。好きにシャッフルするなど、クライアント自身のエネルギーをカードに入れてもらう。今回は3枚をひいて時間軸とテーマの達成度を見ていくことに。人によって1枚だけひいたり、11枚ひいてスプレッドを展開したりも



ソウルマップセッション体験レポート

3つのアイテムで自分と向き合い ケアしていく癒しの時間

3つの手法を使って、クライアントをあらゆる方向からリーディングしケアしていくイーシャさんのセッションは、世界中で支持を得ています。クライアントに応じて微調節し、本来持っている宝物を再び手に出来るようにサポート。このセッションの様子をレポートします。

1

ソウルマップで変化する! 驚きのリーディング



まずは生年月日、時間、場所から、アストロロジーチャート「ソウルマップ」を作成。こちらをもとに生まれ持った環境や性格的な傾向をリーディングしていく。365度の天空を1室から12室に分け、左から反時計回りに進行する。第1室が始まる0度は生まれたときの東の空を意味し、そこに惑星がある場合は強調されることも多い。そして惑星の特徴的な配置に注目する。とくに星が1個だけ孤立しているような場合は意味が強まるので、室と星座を合わせて課題を見ていく。室には個々に象徴的な意味があり、たとえば第6室は健康や医療を表す。また惑星どうしが形成する角度も重要。コンジャンクション(約0度)、オポジション(約180度)などは強烈な作用を持つことも

イーシャさんの謙虚で寄り添う姿勢や、相手を尊重する表現がとにかく素晴らしいです。まずは占星術チャートを見ながらのソウルマップというプロセス。短時間でここまで深い部分を指摘されたのは正直初めてでした。

「まず身体的にセンシティブで、毒素や環境、ネガティブな感情や人に影響を受けやすいですね」太陽・天王星(ともに第11室)がコンジャンクション(約0度)であることから(左チャート参照)、「エキセントリックで、人から理解されにくい。人とは違うユニークさを表現したい」。原型としての「孤児」を表し、過去を断ち切って新しい世界に進んでいく傾向に。

また、両親との関係や過去世まで言い当てられ、驚きました。価値観がまったく違う両親ですが、「この世で新しいものを生み出すためにあえて選んだ宿命。彼らの心配にとらわれることなく自分の道を進んで開花させるのがいい」とアドバイスが。

「自分のミッションをどう実現していくか」について、自分のなかでとめているものが「恐怖心」であることを話し合いました。それは母親の影響のようですが、土星の運行から私はキャリアのサイクルにあり、留まることなくカルマ的なブロックをほどいていけば、その先にはご褒美があるそう。

「好きな仕事を、罪悪感を持たずに、ハッピーにやっていくことを学んで」。過去世では学者だったらしく、今世でも書く能力を引き継いだのだとか。今世はよりクリエイティブに活かしたいという思いがあり、方向性を再確認しました。

カードをひいたあと、フラワーエッセンスを特定していきます。3種類出てきたなかでも、「アンジェリカ」は占星術チャートに出ているという「イマジネーション能力」をサポートしてくれるのだとか。

セッションが進むにつれ、「なんとなく」が確信に変わり、今まで思い悩んでいたことを受け入れることができました。イーシャさんの言葉と態度に触発されたよう。その後エッセンスをとっていますが、そのたびに「自分はこれで大丈夫なんだ」という気持ちわき上がってきます。



タロットが作れたらと思ったのでした。

「当時私はおとぎ話の神秘的な意味や、無意識や夢の世界を探求するユング心理学を勉強していました。それらを反映し、そして私たちの宝物である自己、つまりインナーチャイルドを表すタロットカードを作ろうと思ったんです」日本ではインナーチャイルドというワードが強いのですが、イーシャさんによると、傷ついているのはむしろ内なる大人の部分。私たちが心の中には魂の故郷があるのだと言います。

「多くの人たちが、内側にある本来の美しい宝物を失っています。その素晴らしい部分に再びつながっていきたいのです」

火を囲んで語られたらろう
おとぎ話の語り部のよう

おとぎ話には典型的な構成があります。まず孤児のような状況になった主役がいて、さまざまなイニシエーションを体験し、最終的には幸せな状態になります。それを、「個となっていく」過程と呼ぶのだそう。

「もともとおとぎ話は神秘的な教訓を含んだもので、口承で伝えられてきました。語り部たちがストーリーを語ることで、聞き手の内なる何かが発覚されて目覚めていくことが目的だったのです。当時はたき火やキャンドルライトを囲んで話をしていました。語り部たちは、暗がりの中、みんながどうすればイメージしやすいかわかっていたのです。おとぎ話のあらゆるキャラクターは聞き手自身を表しているということ。また、動物のスピリットや望みの井戸などはシンボルであり、何かをひらめききっかけでした。まさしく蛙が王子様になるような瞬間をもたらしたのです」

おとぎ話は、タロットの0番「愚者」のように、孤児のような状態で、断崖から飛び降りて新しい人生を歩んでいくところから始まります。そしてさまざまなイニシエーションを超えて、21番「世界」の、すべて満たされた状態に到達するのがタロットのプロセスもおとぎ話なのです。

このように、ヒーリングの本質を知ることは、セッションを豊かにします。占星術で問題点に早く到達し、カードでイメージし、エッセンスで癒す。あらゆる方向からアプローチするのは、素晴らしいワークとなるはず。